

NPO 法人 日本ウミガメ協議会
Sea Turtle Association of Japan



2022年10月~2023年9月

1. 日本におけるウミガメ関連情報のとりまとめ

1-1 2023年シーズン（2022年10月～2023年9月）の日本の産卵情報の収集

全国の機関・個人よりウミガメ類の上陸・産卵情報をいただいた。アカウミガメは5,747回の上陸、2,675回の産卵が確認された。また、アオウミガメは1,398回の上陸、892回の産卵が、タイマイは24回の上陸、16回の産卵が確認された。また、種の特定できなかった上陸回数は108回、産卵回数は63回であった。

1-2 2023年シーズンの漂着死体情報の収集

期間中、ウミガメ協議会事務局に通報を受けた漂着死体は581件であった。内訳はアカウミガメ231個体、アオウミガメ299個体、タイマイ13個体、ヒメウミガメ1個体、オサガメ9個体、種不明27個体であった。

1-3 2023年シーズンの標識調査

2022年10月～2023年9月の間に、18の個人・団体・機関に2,480個の標識を配布した。

1-4 第33回日本ウミガメ会議（やんばる大会）の開催

2022年12月16日から18日にかけて標記会議を対面にて開催した。事務局を含め221人の参加があり、3年ぶりとなる対面開催は盛会であった。大会に先立ち、15日の午後からは砂浜観察を行い、夜には前夜祭を行った。

17日には沖縄のセッションを実施し、沖縄県各地で活動している11の個人および団体から15題の活動等の報告があった。その後、産卵情報、死亡漂着、混獲状況の報告とポスター発表があり、夜には懇親会を行った。18日は一般口頭発表があり、今大会では、11件の口頭発表、22件のポスター発表があった。



1-5 第34回日本ウミガメ会議（名古屋港大会）の準備

第34回日本ウミガメ会議名古屋港大会の開催に向け名古屋港水族館との協議、調整を行った。今大会はオンラインでの配信等は行わず、対面のみで開催する。日程は2023年12月8日から10日の3日間で開催する。

1-6 第35回日本ウミガメ会議の準備

第35回日本ウミガメ会議の開催に向け、候補地である宮崎県を訪問し、宮崎野生動物研究会との協議、調整を行った。第35回大会は宮崎県での開催を予定している。

1-7 令和4・5年度 徳島県 自然環境協力員育成（委託）

本事業は、徳島県内のアカウミガメ上陸・産卵調査等に関わる人材育成事業で、平成16年以降継続受託している。県内で募集した協力調査員（約15名）を対象に産卵シーズンに先立ち調査手法や関連情報に関する講習会を実施したうえで、個別の砂浜の調査結果に関して逐次報告を受け、それをとりまとめ、産卵シーズン後にフィードバックする報告会を実施している。本事業年度には、2022年12月10日に報告会を道の駅「日和佐」の会議室で、2023年6月10日に徳島市の沖洲コミュニティセンターで実施した。

1-8 環境省モニタリングサイト1000 ウミガメ調査（委託）

本事業は、国内の様々な生態系に忍び寄り変化をいち早く察知するべく、環境省が多くの調査主体の協力により実施している包括的生態系モニタリング事業で、当会はこのうちウミガメ類の上陸産卵モニタリングと関連情報の調査とりまとめ等を2004年から担当している。2016年度の事業で見直した公募制を柱とする新体制を、1年間の休みを経て、2018年度から再開した。本年度は、33の調査主体に対して、ウミガメの上陸・産卵回数および調査範囲などに関するヒアリングを実施し、とりまとめを行った。また、2018年から2022年度までの5年分のデータをまとめたとりまとめ報告書を作成し、各調査主体へ配布した。

2 国際的な活動

2-1 米国大気海洋局との協働

アカウミガメ北太平洋個体群の産卵は近年低迷している。日本では、産卵後の回帰率が低いことから、危険な海域や脅威の特定と手当は急務である。混獲の可能性が高い漁場において漁業者との連携構築をはかることにより、混獲の実態・影響の再評価をすすめながら、PEDを試験導入するなど具体的なアクションが必要である。一方で、同じ個体群を共有する米国にとって、米国西部太平洋区におけるウミガメの混獲対策と漁業管理の観点から、北太平洋個体群の資源動向を探り適切な保全施策を講じるうえで、上陸産卵モニタリングの継続と、過去のデータの信頼性の確認修正および関係者の合意に基づくデータ利用は最優先課題の一つである。特に、屋久島における調査体制の再構築は急務である。これらの課題解決に向けたプロジェクトを来事業年度から始動すべく、適時、米国大気海洋局とオンラインで協議を勧めながら、計画の策定および資金調達を行った。

3 個別プロジェクト

3-1 みなべ町千里浜のウミガメ保護調査

2023年6月13日から8月20日まで、みなべ町教育委員会の支援を受けて千里観音境内の調査基地にて、常駐の職員を1名配置し、学生調査員およびみなべウミガメ研究班、青年クラブみなべと協働で調査を行った。調査は千里浜における夜間パトロールを実施し、産卵メスの個体識別および産卵巣へ食害対策用の金籠の設置を行い、随時、孵化率調査を実施した。また、この期間を通じて、周辺の砂浜（岩代浜、小目津浜、南部浜）での痕跡調査を昼間に実施した。なお、食害対策および孵化調査については、株式会社ライオン大阪工場のボランティアの皆様の協力を得た。

今年度よりこれまで中止していた一般観察者の受け入れを再開し、期間中観察者の対応を行った。

調査期間中には、大阪ECO海洋動物専門学校および帝京科学大学の臨海実習の受け入れ、三重大学かめっぴりの勉強会を行った。

また、三重県紀宝町の視察および美波町美波町ウミガメ保護監視員の研修を受け入れた。



3-2 アースウォッチ・ジャパン種子島のアカウミガメ調査（助成）

本プロジェクトは、アカウミガメの産卵地として屋久島に次ぐ規模の産卵を誇る種子島において、組織的な夜間砂浜踏査に基づく産卵メスの個体識別調査を実施するものである。主な目的は、屋久島や宮崎、みなべなど主要産卵地における回帰率の低さが種子島への産卵地の変更では説明できないことを確認し、間接的に、産卵後のメスの死亡率の高さを示すことにある。地元タートルクルーと連携し、三菱重工グループの支援を受けて継続している。今年は8日の調査にボランティア48名の協力を得て実施した。



3-3 アースウォッチ・ジャパン紀州みなべのアカウミガメ調査（助成）

本プロジェクトは、アカウミガメの産卵地として本州最大を誇る和歌山県みなべ町において、千里浜に加えて、周辺の砂浜でも組織的な夜間砂浜踏査に基づく産卵メスの個体識別調査を実施するもので、これにより同一個体が町内の複数の砂浜を一体的に利用していることを示し、シーズン内の1個体あたりの産卵回数など基礎的な産卵生態を明らかにすることを目的としている。また、2019年度以降は、GPSアルゴス送信機を用いて、産卵期間中および産卵後の移動経路の解明にも取り組んでいる。実施にあたっては、みなべウミガメ研究班と連携し、日本郵船グループの支援を受けて継続している。今年度はボランティアの参加者23名の協力を得て、7月に2泊3日の調査を2回実施した。6月末にGPSアルゴスを千里浜で産卵個体1頭と室戸で混獲個体1頭に装着し、移動経路を追跡した。



3-4 美波町回帰率向上拠点計画検討協議会・博物館リニューアルへの参画

文部科学大臣および国土交通大臣に認定された「美波町回帰率拠点計画」の実施に向けた取り組み、同計画の目標達成状況の検証、日和佐うみがめ博物館カレッタの機能強化事業の実施などに向けた取り組み等について必要な事項を検討する「美波町回帰率向上拠点計画検討協議会」の構成団体として参画するとともに、博物館リニューアルの全体監修の依頼を受けて、特に昨事業年度に続き館内展示の作成および英語ライティングを監修した。

3-5 自然環境下における産卵期アカウミガメの心拍モニタリング

昨年度に引き続き、名城大学との共同研究で、自然環境下で産卵を行うアカウミガメ成体メスの陸上活動における心拍数変化を把握するとともに、産卵に伴う心拍数低下の有無を明らかにすることを目的として、7月前半に、みなべ町千里浜および岩代浜において、心電ロガーの装着および回収を行った。

3-6 ウミガメ用金属製新型タグの試作

太平電機(株)の協力を得て、既存のプライヤーで装着できる金属製の新型タグの開発を進めている。試作品の検証を、南知多ビーチランドおよび沖縄美ら海水族館の協力を得て、飼育個体への新型タグの装着実験を行った。その後試作タグの改良および着色を行い、和歌山県みなべ町にて産卵個体に装着実験を行ったが、着色の剥離が大きく、これを防止するため、現在タグに熱処理加工を施し、色素の着底強化を試みている。

3-9 永田いなか浜における上陸産卵モニタリング調査業務（屋久島町）

日本ウミガメ協議会として環境省からの委託事業として実施している。

5月10日から7月31日の期間、いなか浜での夜間調査を行い、上陸産卵の回数、時間、場所の調査および、個体識別調査を実施した。

大野睦

4 情報発信・教育啓発

(※付属施設の活動については、「5」に記載)

4-1 講演活動

2022.10.12. 於：板橋第三中学校 オンライン出前授業
2022.10.13. 於：板橋第三中学校 オンライン出前授業
2022.10.15. 於：寝屋川市「かめづくし展」トークイベント
2023.02.19. 於：三菱重工オンライン理科授業
2023.05.29. 於：ライオン大阪工場 オンライン講演
2023.06.24. 於：帝京科学大学サルカメ実習
2023.06.23. 於：枚方市「2回目の学校」出前授業
2023.09.11. 於：アースウォッチ・ジャパン 三菱重工オンライン報告会
2023.09.13. 於：アースウォッチ・ジャパン 日本郵船オンライン報告会
2022.09.22. 於：紀宝町ウミガメ公園アオウミガメ繁殖記念式典 講演

4-2 普及啓発

徳島県アカウミガメ上陸産卵調査報告会を開催 2022/12/10 徳島
徳島県アカウミガメ上陸産卵調査講習会を開催 2022/06/10 徳島
豊島株式会社オーガピッツ感謝の会に出席(石原) 2023/08/29

4-3 その他

(1) 広報・メディア協力等(抜粋)

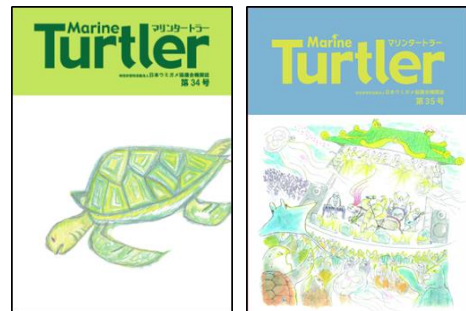
読売新聞 「ウミガメ産卵調査講習」2023/06/11 掲載 取材協力
読売新聞 「アカウミガメの「お母さん」を追い」2023/07/05 掲載 取材協力
静岡新聞 「御前崎アカウミガメの産卵減少」2023/08/29 掲載 取材協力
読売新聞 「ウミガメ高いふ化率」2023/09/23 掲載 取材協力

『ずかん 貝のからだ』(技術評論社)写真提供

(2) 情報の発信・印刷物の発行等

●機関誌「マリンタートル」の発行

日本ウミガメ協議会の活動を広く周知するために、機関誌「マリンタートル」第34号(3/31)と35号(9/1)を発行した。



●ウミガメ速報の配信 計11回

ウミガメに関わる個人・団体間での連携と情報の即応性を高めるために、電子メール・ファックスなどを利用し、ウミガメの産卵情報を中心とした情報を不定期に配信した。

●「うみがめニュースレター」の発行支援

うみがめニュースレター編集委員会（委員長：石原孝、編集委員：平間茂知・河津勲・亀田和成・岡本慶、顧問：亀崎直樹）が発行している情報誌「うみがめニュースレター」の発行経費（印刷・発送）を全額支援した。

事業年度中に No.111 号の発行を支援した。



(3) インターシップの受け入れ

大阪公立大学：1名、1 神戸大学大学院：1名、神戸外国語大学：1名、神戸動植物環境専門学校：1名 ほか

(4) 専門学校講義担当

大阪 ECO 海洋動物専門学校にて、週 4 コマ（海洋生態・水族館就職対策）を担当
大阪 ECO 海洋動物専門学校のウミガメ調査実習（2泊3日）3回を担当

（松沢・松宮・井上・平井）

5 付属施設の活動

5-1 黒島研究所の活動

I. 調査・研究活動

●ウミガメ類の上陸産卵調査（主に黒島西の浜、西表島南岸のウブ浜とサザレ浜）

黒島西の浜におけるウミガメ類の産卵調査は、荒天時を除き、毎日実施した。アオウミガメの上陸 43 回そのうち産卵 24 回、タイマイ上陸 4 回そのうち産卵 3 回が確認された。アオウミガメの上陸・産卵回数は過去最多となった。西表島の南岸のウブ浜とサザレ浜は、日程調整がつかず、調査できなかった。

●ウミガメ類の標識放流調査

今年度はアオウミガメ 79 個体、タイマイ 1 個体を標識放流した。アオウミガメの内訳として海域で捕獲した 75 個体、産卵のために上陸した 2 個体、人工飼育 2 個体であった。タイマイは産卵に上陸した 1 個体であった。

●助成・委託事業

委託事業：長崎大学、環境省及び民間企業から、それぞれ 1 件を委託した。

●論文・学会発表など

Kameda K, Wakatsuki M, Takase M, Nakanishi Y, Kamezaki N (2023) Apparent survival probability and abundance of juvenile green turtles in the foraging ground at Kuroshima Island, Ryukyu Archipelago. *Endangered Species Research* 50: 209-215. 論文

Hamabata T, Kawata M, Kondo S, Matsuo A, Suyama Y, Suzuki K, Kameda K (2023) Twenty-year changes in the composition of a mixed stock of foraging green turtles in the Yaeyama Islands of Japan. *Marine Ecology Progress Series* 716: 93-105. 論文

木下千尋・奥山隼一・渡部明美・亀田和成・佐藤克文(2022) 経路データ統合により明らかになったアカウミガメの生息域の性差. 日本バイオリギング研究会シンポジウム(2022年11月25-26日) 口頭発表

●本年度に実施、もしくは、次年度に予定しているプロジェクト

ウミガメの脳波に関する研究. 名城大学・同志社大学と共同研究.

今年度実施・来年度も継続予定

スナガニによるウミガメ卵の捕食. 高知大学と共同研究. 今年度実施

アオウミガメのバイオリギング. 東京大学と共同研究. 今年度実施

II. 利用研究者・学生

2022年

研究者：東京大 2名

学生：東京海洋大 2名、高知大 1名、三重大 1名、東京農業大 1名、大阪 ECO 専門学校 1名

2023年

研究者：長崎大 1名、東京大 4名、同志社大 2名、名城大 1名

学生：琉球大 3名、三重大 3名、東京農業大 1名、高知大 1名、日本大 1名、日本獣医生命科学大 1名

利用者合計 26名（研究者 10名・学生 16名）

III. 団体の受け入れ

修学旅行：34校

旅行者からのツアー：59回

その他：4回

IV. 新聞掲載・テレビ出演等

QAB お散歩プラス#34 竹富町 牛だけじゃない黒島の魅力（2023年4月11日放送）



修学旅行でのウミガメ放流



近海郵船株式会社様からの船の寄贈式

V. その他

入館者数 13,367人（2022年10月～2023年9月）

- マリントラトラ発行
- 黒島ビジターセンター管理業務補助
- 島根大学隠岐臨海実験所の現地調査補助
- 一橋和義（2023）「なまこは平気！目・耳・脳がなくてもね！さくら舎」へ写真提供
- 近海郵船株式会社から調査船を寄贈

（若月・亀田・中西）

5-2 むろと廃校水族館および室戸基地の活動**I. 調査・研究活動****●ウミガメ類の通常調査**

- （主に高岡・三津・椎名混獲個体の計測標識放流、標識個体の計測、上陸痕跡確認）
- ・大敷網 アカウミガメ 148頭、アオウミガメ 85頭、クロ1頭、タイマイ1頭。
 - ・漂着 アカウミガメ 1頭、アオウミガメ 2頭
 - ・上陸産卵 アカウミガメ 2回

II. 利用研究者・学生

2021年

- 10月 大宮国際動物専門学校 1名 高知大学 1名
- 11月 福岡ビジョナリーアーツ専門学校 1名 高知大学 1名
- 12月 KAP1名 東海大 1名 大阪ECO3名 東京農業大 1名 三重大 2名 高知大学 1名

2022年

- 1月 大阪ECO3名 三重大 2名 八洲学園大 1名 福岡ビジョナリーアーツ専門学校 1名 高知大学 1名
- 2月 福岡ビジョナリーアーツ専門学校 1名 大阪ECO1名 高知大学 1名
- 3月 大阪ECO2名 東京海洋大 2名 三重大 1名 琉球大 1名 高知大学 1名
- 4月 琉球大 2名 東京海洋大 1名 奈半利中 1名 高知大学 1名
- 5月 大阪ECO1名 琉球大学 1名 東京海洋大 1名 高知大学 1名
- 6月 室戸中 4名 羽根中 1名 高知大学 1名
- 7月 東京海洋大 4名 仙台ECO1名 室戸高 2名 佐喜浜中 2名 高知大学 1名
- 8月 東京海洋大 6名 千葉科学大 2名 三重大 1名 仙台ECO1名 琉球大 1名 高知大学 1名
- 9月 東京農業大 1名 三重大 1名 高知大学 1名

利用者合計 42名

III. 団体の受け入れ**●学校・保育園（遠足等）**

2022年

- 10月 高知県立高知農業高校、安田町立安田小学校、北川村立北川小学校、高知県立山田特別支援学校、四万十町立窪川中学校、高知県立高知小津高校、奈良学園高等学校、フレンド幼稚園、
- 11月 東洋町立甲浦小学校、高知県立高知国際高等学校、京都府立南丹高等学校、とさ自由学校、高知市立高知特別支援学校小学部、高知県立日高特別支援学校高知みかづき分校、広島県立御調高等学校、認定こども園なはり、佐喜浜保育所
- 12月 高知県立大学、高知大学、芸西村立芸西小学校、徳島県立徳島中央高校定時制

2023年

- 2月 安芸市立川北小学校特別支援学級、徳島県立阿南支援学校ひわさ分校
- 3月 佛教大学、井ノ口保育所、伊尾木保育所
- 4月 近森病院付属看護学校
- 5月 門真市立第二中学校、灘中学校、元保育所
- 6月 香港中文大学、堺市立深井中学校、大阪府立東我孫子中学校、室戸市立室戸中学校、海陽町立宍喰小学校
- 7月 大洲市立新谷中学校、大洲市立肱東中学校、大洲市立平野中学校、大洲市立大洲北中学校、大洲市立長浜中学校、大洲市立肱川中学校、清和女子中学校、とさ自由学校、京田辺シュタイナー学校 滝川中学校、大阪府立千里高等学校、蒼開中学校

8月 京都府立桃山高等学校、室戸市立吉良川中学校、岡山理科大学
9月 新居浜市立高津小学校、大阪 ECO 動物海洋専門学校

●議員等の視察受け入れ

2022年

10月 群馬県桐生市議会
11月 広島県三次市議会

2023年

5月 沖縄県竹富町長ら
7月 広島県安芸太田町議会、東京都武蔵村山市議会、京都府宮津市議会、沖縄県国頭村副村長・課長ら

●ツアー

読売旅行、阪急交通社、クラブツーリズム、日本旅行、JR 四国、福山ツーリスト、徳島中央観光、など

IV. 新聞掲載・テレビ出演等

全国・ローカル問わず多数出演
高知新聞、読売新聞など多数掲載
朝日新聞「海はエライ」コラム連載（若月）

V. その他

●入館者数 88,914 人（2022年10月1日～2023年9月30日）

●ウミガメ調査体験

主に小・中学生を対象として実施

●イベント実施

2021年

11月 自然の家と連携・協力の協定書調印式

2022年

1月 M キャンプ 水族館に泊まろう！
2月 サバらしい日々、まるっとむろと体験博「サメの解剖教室」
4月 TSUTAYA 中万々店出張ぶりくじ
8月 きもだめし夜の廃校水ゾクッ館、枚方まつり出張ぶりくじ
9月 M キャンプ 水族館に泊まろう！

●Twitter 毎日更新

●講演活動

2022年

11月8日 高知市民の大学自然科学コース
11月17日 第70回日本博物館協会全国博物館大会高知大会

2023年

1月24日 中小企業同友会
2月27日 芸東更生保護女性会
7月1日 高知県経営品質協議会

（若月・千原・鈴木・堀部・空田・広瀬・村井・瀬間）